

## 1. 市民ワークショップについて

新たな環境基本計画の策定にあたっては、市民ワークショップを開催し、鎌倉市の未来のビジョンやその実現に向けてすべきことなどを話し合い、そこから得られた意見等を計画に反映することとしています。市民ワークショップは、「Liqlid」を使ったオンライン意見聴取と、現地でのワークショップの2つの手法を用いて、意見を集約していくこととしました。

### ■これまでのワークショップの流れ



## 2. 第2回市民ワークショップの概要

第2回市民ワークショップでは、第1回で話し合った「かまぐら環境に関する未来に向けたアイデアを具体化」するために、行政、市民や事業者、観光客など鎌倉に滞在する全ての人が何をすればよいかを話し合い、「**行動指針**」や「**重点プロジェクト**」のアイデアを作成しました。

ワークショップにあたっては、Liqlid【**「未来の鎌倉がこうなったらいい！」を実現するために、『あなたがやるべきこと』、『あなたがやってみたいこと』を教えてください。】**で投稿されたアイデアについて情報提供を行い、行動指針や重点プロジェクトについて考えていただくための材料としました。

### ■第2回市民ワークショップの開催概要

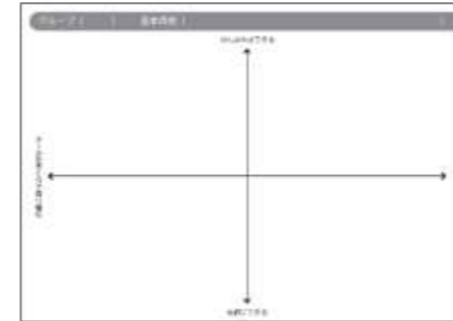
会場	鎌倉芸術館 集会室
日時	令和8年(2026年)2月21日(土) 13:30~16:30
参加者	17名 (1グループで、3~4名の5グループ構成で運用)
コンセプト	かまぐらの未来の環境のために、いますべきことについて話し合い、市民・事業者・滞在者に実施してほしい行動を示す「行動指針」と市民・事業者・滞在者の連携により実施する「重点プロジェクト」のアイデアづくり。

### ■第2回かまぐら環境ワークショップの流れ

#### Step1: 「行動指針のアイデア」を皆で考えて、整理する

- 各グループで新たな環境基本計画で設定している6つの基本目標から2つを選んで、「**主体別(わたしが取り組む/オールかまぐらで取り組む)**」と「**取組難度別(がんばればできる/気軽にできる)**」の2軸で、事務局が提示した取組メニューカードの配置を検討、右記のマトリクスに貼り付けていきました。
- 1.で整理した内容を踏まえて、**楽しくワクワクする要素や一般の人が続けられる仕組み・仕掛け**などもグループで話し合いながら、**行動指針の新たなアイデア**を付箋に書いて右記のマトリクスに貼り付けていきました。

#### ※当日資料



#### Step2: 市民・事業者・滞在者の連携のもと進める「重点プロジェクト(案)」の方向性を決める

- 各グループで、右記の資料をもとに行動指針のアイデアのうち「**オールかまぐらで取り組む**」&「**がんばればできる**」に分類されたアイデアを参考にして、始めやすく・効果があるといった視点から「**重点プロジェクト**」のキーワード(場所・主体・問題など)を話し合いました。
- 3で整理したキーワードを元に「**解決・改善したい課題**」を話し合いました。

#### ※当日資料



#### Step3: 「重点プロジェクト(案)」の内容を具体化する

- 市民、事業者、観光客が課題の解決や改善に向けて取り組むべきことを、「**まずは始めること**」、「**次にすべきこと**」、「**5年後にどうなっている**」の3段階で話し合いました。
- 行政がすべきこと(支援等)についても、上述の3段階で話し合いながら、最後に**重点プロジェクト名**を決めました。
- 最後に、各グループで考えた「**重点プロジェクト(案)**」について発表しました。



### 3. かまくら環境ワークショップの総括

全2回で開催した市民ワークショップの意見・アイデアを、新たな環境基本計画の基本目標別に整理すると下記のとおりとなります。

テーマ	第1回かまくら環境ワークショップ	第2回かまくら環境ワークショップ	
	ベストな未来のアイデアからの目指すべき方向性	行動指針のアイデア	重点プロジェクトのアイデア
基本目標1 脱炭素社会の実現と気候変動に適応するまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 交通・エネルギーといった暮らし全般の脱炭素化が一体的に推進され、カーボンニュートラルな社会が実現しています。</li> <li>● 気候変動による災害激甚化、夏の高温などの影響への適応策が浸透し、気温上昇が続く中でも市民や事業者は賢明に対応しながら安心して暮らしています。</li> <li>● 地球規模の問題危機感をもちつつも、ワクワク感を大事にした市民参加型のイベントや教育が行われ、地球温暖化の防止に向けた持続可能な活動が根付いています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 家に太陽光パネル太陽電池を設置</li> <li>● CO2 を食べる自販機の設置</li> <li>● まちなかの空きスペースへの太陽電池や小型風力発電の設置</li> <li>● 再生可能エネルギーの活用</li> <li>● EVバス・タクシーや水素バス・タクシーの導入推進</li> <li>● たった一人でマイカー利用をしない</li> </ul>	<p>子どもたちと一緒につくる継続した鎌倉の自然や環境を伝える プロジェクト</p> <p>地域組織をベースにして、テーマ性のあるイベントの開催などの環境の取組からはじめて、学校や観光事業者、環境団体と連携しながら、市民、事業者、観光客の鎌倉の環境を守る意識を醸成して、まちや自然の環境保全を実施していく。</p>
基本目標2 豊かな自然資本を守り、恵みを楽しむまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 緑地の適切な管理により、鎌倉の貴重な緑が守られています。</li> <li>● 緑の多様な機能（景観、災害抑制、CO2 吸収、雨水貯留、生態系保全など）が維持されています。</li> <li>● 野生動物と人の活動するエリアがすみ分けられ、在来の動植物及びその生息域が守られています。</li> <li>● 自然や史跡を楽しみながらのハイキングやクリーンアップなど、歴史や文化、自然共生を学ぶエコツアーが行われています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 何のために環境活動をするのか目的をわかりやすく伝える。</li> <li>● 生態系の変化や破壊は人間にとっても危険なことがあると伝える</li> <li>● 生態系の勉強会の開催</li> <li>● 大人や親も学ぶことのできる仕組みづくり</li> <li>● アウトドアを楽しんでいる人たちに自然環境保全活動への参加を促す</li> <li>● 自然の減少を防ぐ</li> </ul>	<p>かまくら“ぐるぐる”プロジェクト</p> <p>地域の専門家との連携や事業者の協賛のもと、市民発の勉強会を開催することからはじめて、環境にやさしい行動や環境保全活動に参加することによるポイント等のインセンティブや、鎌倉市内での消費が自動的に寄付につながる仕組みづくりなどにより、活動参加や協力が意識しなくともできるようになる。</p>
基本目標3 歴史・文化的環境の保護活用が進むまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 昔ながらの景観を残しながら、環境性能の高い建物に更新されています。</li> <li>● 観光客需要の分散やマナーの啓発により、まちの静けさや歴史的な自然環境が保たれています。</li> <li>● 風致地区等で歴史的な自然環境を守るため、行政、市民、専門家等が連携して保全活動を行っています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 店舗は建物の色を工夫するなどして景観に配慮する</li> <li>● 看板やネオンを統一するなど景観に共通した意識を持つ</li> <li>● 皆で清掃する</li> <li>● 歴史と文化に関する小学生からの教育</li> <li>● 観光客への歴史・景観への周知</li> </ul>	<p>環境プラットフォームづくり プロジェクト</p> <p>地域組織をベースにして、テーマ性のあるイベントの開催などの環境の取組からはじめて、学校や観光事業者、市民団体と連携しながら、市民、事業者、観光客の鎌倉の環境を守る意識を醸成して、まちや自然の環境保全を実施していく。</p>
基本目標4 安全快適な環境で健康に暮らせるまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 観光客のごみの持ち帰りが定着し、ポイ捨てや落書きのない、快適できれいなまちが保たれています。</li> <li>● 市民の持つ高い美意識が鎌倉を訪れる人にも共有され、滞在する全ての人に環境保全の行動規範が定着して、静かで安心できる生活環境が保たれています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ごみや騒音の対策</li> <li>● 清掃活動などに参加するための情報発信</li> <li>● 海洋プラスチック対策の推進</li> <li>● 皆で清掃する</li> <li>● 地域の人達の繋がりづくり（安全にもつながる）</li> <li>● 幼少時から自分でできることを学ぶ環境づくり（例：節水）</li> </ul>	<p>みんなを巻き込む かまくら一步一步 プロジェクト</p> <p>学校の断熱リフォームの授業や事業者・観光客のごみやCO2 排出の責任を啓発することからはじめて、それぞれが、地域の環境問題を解決するための様々な行動を着実にを行うことで、脱炭素化や資源回収の取組のモデルや連携の仕組みを構築する。</p>
基本目標5 循環型社会の形成が進むまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>● リフューズ、リデュースの徹底とともに、リユースやリペアの日常化とアップサイクルが、鎌倉の文化として根づいています。</li> <li>● 「所有」から「共有」への意識転換が進み、地域における資源循環への市民意識が当たり前のこととして定着して「ごみという概念のないまち」になっています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 包装プラスチックの制限で大元からの削減</li> <li>● 個包装を減らす</li> <li>● スチールカップの普及</li> <li>● 観光客用のごみの出口をつくる（ごみ箱や店での引き取り）</li> <li>● ごみの出し方のルールを守る</li> </ul>	<p>愛あるコミュニケーション プロジェクト</p> <p>鎌倉の生活環境を脅かす民泊、ごみや騒音の問題に対して、市民がまず、これまでの鎌倉の生活環境を良くするための取組をよく知り、その想いを事業者や観光客に伝えていくコミュニケーションを継続していくことで、それぞれの主体が環境への配慮ができるようになる。</p>
基本目標6 環境保全に関する共創・連携が広がるまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子ども・若者・企業・地域をつなぐ参加の仕組みが広がり、誰もが安心して参加できる、心理的安全性の高いコミュニティが育っています。</li> <li>● 市民に情報が届きやすい仕組みや、インセンティブ（特典・称賛・可視化）による継続参加の促進を図る取組が様々に進められています。</li> <li>● 環境団体の活動に参加する人が増え、団体間の有機的な連携が進められています。</li> <li>● 環境教育が必要な人に提供されています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 何のために環境活動をするのか目的をわかりやすく伝える</li> <li>● 行政、企業、商店の連携による、買い物や飲食等で自動的に寄付できる仕組み</li> <li>● 良いことをしたら価値がある・得をする仕組み（お金ではない）</li> </ul>	

「未来ビジョン」に反映

「行動指針」と「重点プロジェクト」に反映